

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名:東京都離島航空路地域協議会

評価対象事業名:離島航空路における地域公共交通確保維持事業(離島航空路運航費等補助事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
全日本空輸株式会社	羽田～八丈島間を1日3往復運航	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き島民割引(アイキップ)を設定し島民の利便性の向上に努めている。</li> <li>進入方式変更・風速制限緩和による就航率向上に継続して努めている。</li> </ul>	A 天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	A R7.4～R8.3までの計画運航回数2,190回のうち、R7.4～R7.11までの計画運航回数1,464回に対して、R7.4～R7.11までの就航実績は1,356回であった。欠航は合計108回であり、天候不良による欠航106回、機材繰り等による欠航2回となっている。 R7.4～R7.11間における、天候不良による欠航を除いた場合の実績就航率は99.9%となっている。 結果として、天候不良による欠航を除いた場合の目標就航率99.6%(確保維持計画における目標就航率93.4%)に対し、目標達成率は100.3%となっており、就航率の維持は達成できている。	就航率の維持及び冬期等の低需要期の集客対策を図る。(特定有人国境離島法に基づく運賃低廉化事業の継続実施を含む)

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名:東京都離島航空路地域協議会

評価対象事業名:離島航空路における地域公共交通確保維持事業(離島航空路運航費等補助事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
新中央航空株式会社	調布～大島間を1日2～3往復運航	<p>東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、「島じまん2025」をはじめとした各種イベント等に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。</p> <p>【乗務員の養成について】 R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職し機長8、副操縦士5の体制となっていたところ、3名の訓練生を養成し、R7.3月時点で機長8、副操縦士8の体制に回復した。今後は副操縦士の機長昇格を優先に取り組み、乗務員全体の若返りと体制安定を目指す。</p>	A R7.1月末に発生した機材主翼の腐食に伴う整備作業の長期化により、R7.12月現在にかけて便数を減らしたが、その間も残りの機体にて最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B R7.4～R8.3までの計画運航回数1,598回のうち、R7.4～R7.11月までの計画運航回数1,086回に対して、R7.4～R7.11月までの就航実績は946回であった。欠航状況は、腐食修理作業長期化の影響による減便が48回のほか、天候不良72回、機材繰り20回の計140回。R7.4～R7.11間における、天候不良による欠航を除いた場合の実績就航率は93.3%となっている。結果として、天候不良による欠航を除いた場合の目標就航率97.7%(確保維持計画における目標就航率92.0%)に対し、目標達成率は95.5%となっており、実績就航率は下回っているものの、就航率の維持に努めている。	機材更新による平均機齢の若返り及び不具合事象の低減を図る。運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。(離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施を含む)費用抑制を図る。
新中央航空株式会社	調布～新島間を1日3～4往復運航	<p>東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、「島じまん2025」をはじめとした各種イベント等に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。</p> <p>【乗務員の養成について】 R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職し機長8、副操縦士5の体制となっていたところ、3名の訓練生を養成し、R7.3月時点で機長8、副操縦士8の体制に回復した。今後は副操縦士の機長昇格を優先に取り組み、乗務員全体の若返りと体制安定を目指す。</p>	A R7.1月末に発生した機材主翼の腐食に伴う整備作業の長期化により、R7.12月現在にかけて便数を減らしたが、その間も残りの機体にて最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。	B R7.4～R8.3までの計画運航回数2,920回のうち、R7.4～R7.11月までの計画運航回数1,952回に対して、R7.4～R7.11月までの就航実績は1,551回であった。欠航状況は、腐食修理作業長期化の影響による減便が312回のほか、天候不良82回、機材繰り5回、機材故障2回の計401回。R7.4～R7.11間における、天候不良による欠航を除いた場合の実績就航率は82.9%となっている。結果として、天候不良による欠航を除いた場合の目標就航率96.9%(確保維持計画における目標就航率は92.3%)に対し、目標達成率は85.6%となっており、実績就航率は下回っているものの、就航率の維持に努めている。	機材更新による平均機齢の若返り及び不具合事象の低減を図る。運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。(離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施を含む)費用抑制を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名:東京都離島航空路地域協議会

評価対象事業名:離島航空路における地域公共交通確保維持事業(離島航空路運航費等補助事業)

<p>新中央航空株式会社</p>	<p>調布～神津島間を1日2～3往復運航</p>	<p>東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、「島じまん2025」をはじめとした各種イベント等に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。</p> <p>【乗務員の養成について】 R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職し機長8、副操縦士5の体制となっていたところ、3名の訓練生を養成し、R7.3月時点で機長8、副操縦士8の体制に回復した。今後は副操縦士の機長昇格を優先に取り組み、乗務員全体の若返りと体制安定を目指す。</p>	<p>A</p> <p>R7.1月末に発生した機材主翼の腐食に伴う整備作業の長期化により、R7.12月現在にかけて便数を減らしたが、その間も残りの機体にて最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>R7.4～R8.3までの計画運航回数2,190回のうち、R7.4～R7.11月までの計画運航回数1,464回に対して、R7.4～R7.11月までの就航実績は1,171回であった。欠航状況は、腐食修理作業長期化の影響による減便が132回のほか、天候不良154回、機材繰り6回、機材故障1回の計293回。R7.4～R7.11間における、天候不良による欠航を除いた場合の実績就航率は89.4%となっている。結果として、天候不良による欠航を除いた場合の目標就航率98.7%(確保維持計画における目標就航率は89.6%)に対し、目標達成率は90.6%となっており、実績就航率は下回っているものの、就航率の維持に努めている。</p>	<p>機材更新による平均機齢の若返り及び不具合事象の低減を図る。 運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。 就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。 (離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施を含む) 費用抑制を図る。</p>
<p>新中央航空株式会社</p>	<p>調布～三宅島間を1日2～3往復運航</p>	<p>東京都実施の東京宝島事業に協賛し、機体のロゴラッピングを継続して行っているほか、「島じまん2025」をはじめとした各種イベント等に協賛出展し、イメージ向上と認知拡大を図っている。</p> <p>【乗務員の養成について】 R6.1月と8月に副操縦士1名ずつが離職し機長8、副操縦士5の体制となっていたところ、3名の訓練生を養成し、R7.3月時点で機長8、副操縦士8の体制に回復した。今後は副操縦士の機長昇格を優先に取り組み、乗務員全体の若返りと体制安定を目指す。</p>	<p>A</p> <p>R7.1月末に発生した機材主翼の腐食に伴う整備作業の長期化により、R7.12月現在にかけて便数を減らしたが、その間も残りの機体にて最大限可能な便数設定に努めた。天候等による欠航はあったものの、事業は概ね適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>R7.4～R8.3までの計画運航回数2,190回のうち、R7.4～R7.11月までの計画運航回数1,464回に対して、R7.4～R7.11月までの就航実績は1,231回であった。欠航状況は、腐食修理作業長期化の影響による減便が130回のほか、天候不良94回、機材繰り9回の計233回。R7.4～R7.11間における、天候不良による欠航を除いた場合の実績就航率は89.9%となっている。結果として、天候不良による欠航を除いた場合の目標就航率99.0%(確保維持計画における目標就航率は92.3%)に対し、目標達成率は90.8%となっており、実績就航率は下回っているものの、就航率の維持に努めている。</p>	<p>機材更新による平均機齢の若返り及び不具合事象の低減を図る。 運航乗務員数の維持に努め、計画的な乗員養成を実施する。 就航率の維持及び搭乗率の向上を図る。 (離島住民運賃割引による運賃低廉化事業の継続実施を含む) 費用抑制を図る。</p>